



明日を拓く

学 校 報
令和元年 7月19日
No.24
美郷町立美郷中学校

■「みんなで創る明るい社会」Y. OOさん

美郷町公民館で昨日開催された第69回社会を明るくする運動「支え合うまちづくりを進める集い」において、本校3年Y. OOさんが発表した作文を紹介します。



美郷中生全員が、Y. さんの言葉を咀嚼(そしゃく)して想いを深めてほしいとのねらいから、本日の集会でも発表していただき、前期前半を締めくくっていただきました。

最近、私はニュースで見かける度に、とても気になっている話題があります。それは、「いじめに遭い、自らの命を絶ってしまった」ということです。そしてそれは、「えっ、また？」というように後を絶ちません。私は、このような記事を目にする度に、私の身近なところでも同じようなことが起きることがあるのではないかと不安な気持ちになります。「いじめ」は、人の尊厳や命に関わる重大なことであり、非行や犯罪にもつながりかねない、人として絶対にやってはいけないことです。

私はかつて、からかわれたり、馬鹿にされたりといった、いじめに近い行為を受けた経験があります。

私には吃音症があります。それは、自分が言葉を発したいと思ったとき、上手に言葉がでないというものです。今はほぼ症状の出ることはなくなってきましたが、それでも緊張してしまうことがあります。当時は、何の苦もなくスラスラと話す友達がとてもうらやましく思いました。自分が気にして不安になっている時に、このことを数人の友達が馬鹿にしたり、からかったりするようになりました。そうしたとき、とても悲しく寂しい気持ちになったことを今でもはっきりと思い出し、いやな気持ちになります。

あるとき、私のそうした様子を心配してくれた友人が、先生に相談してくれました。そのおかげで、私に対するからかいはなくなりました。しかし今度は、私を助けてくれた友人がいじめられてしまったのです。それを見た私は、勇気を振り絞って先生に相談をしました。きっとあのとき、友人も私のために勇気を出してくれたに違いないと思いました。それからは、その人たちは誰のこともいじめなくなりました。

この出来事を通して私は、人は助けってもらったり、助けてあげたりして、「支え合って」生活していくことが大切だと学びました。人と人が支え合っ

て「人」という字があるように、人は一人では生きていけません。だからこそ、この「支え合い」をどんどん広げ、時には勇気を振り絞ってでも、誰とでも支え合えるようにしていきたいと強く思いました。

私は、自身の体験やニュースで取り上げられているいじめには、共通点があると思いました。それは、「加害者の認識の甘さ」です。いじめてしまった側の加害者が、相手の気持ちを深く考えないで行動し、しかも、それがいじめであるという認識が低いということです。加害者がいじめを行ったつもりはないと主張しても、相手がいじめと認識してしまえば、それは「いじめ」です。そのことを、本を読むなどして、みんながしっかりと理解しておくことが大切だと思います。

そして、いじめと思われてしまうような行為はしない、また、そのような場面を見付けたら、周りが止める、相談できる人に相談をする、そうすることでいじめを減らしていけると思います。

もしも、いじめをはじめとする過ちを犯してしまったときは、同じ過ちを二度と繰り返さないために、自分の過ちを振り返り、その重さをしっかりと理解して反省することが大切だと思います。また、周りの人たちは、加害者をたった一度の失敗で孤立させるようなことがないように、しっかりとフォローしてあげることも大切だと私は思います。

みんなで優しく支え合う、そうすることでいじめを減らすだけではなく、みんながもっと楽しく、生き生きとしている明るい社会になっていくと、私は考えます。

今もこの瞬間に、日本だけではなく世界のどこかで、いじめや犯罪などが起こっているかもしれません。私は、身近にあるいじめや犯罪などを減らしていくために、まず自分がこれらのことに関する様々な知識を、しっかりと身に付けたいと思います。そして、周りの人たちを注意したり、正しい道に進んでいけるよう呼びかけをしたりしていきたいです。その一歩が今日です。こうして、少しでも社会からいじめや犯罪などを減らしていく手助けをしていきたいです。私はこれから、明るい社会を築いていくための一員として、自立した人間に成長できるように、日々の努力で力を付けていきたいです。

■一人一人が“自らを律し、やり遂げる夏”に！

♪吹奏楽部の言い訳のない音楽を期待しています(協力)

■祈健闘・必勝♡東北大会出場チーム・選手！

♡心ひとつに共に走る美郷♡田沢湖畔が待っている